

「景観ボランティア明日香（06年度作業キャンプ）」からの報告

明日香には未来に引き継ぐべき、大切な景観資産があります。四季の樹々の変化や人の関わりから醸成される里山は、古都の大切な景観要素です。明日香村は「古都保存法」と「明日香村特別措置法」で乱開発から守られてきました。しかし、少子高齢化による里山域での人の関わりが少なくなったことで「里山力」が衰退し、雑草の繁茂や放棄水田・畑地に笹や竹が異常繁殖して、生態系が崩れると同時に、景観が損なわれてきています。日本人のこころの故郷である飛鳥の景観を保全していくことは高松塚古墳壁画やキトラ古墳壁画が国民の共有の貴重な財産であると同様に重要なことです。

この古都景観が損なわれつつあることを危惧した元新聞社論説委員の三木健二氏が中心となり、英国ナショナル・トラストの作業キャンプに参加された体験から「景観ボランティア明日香」を提言、飛鳥大好き人間が集まり、地元の人たちと協働で、古代ロマンにあふれる時空のなかで、いい汗をかいて、楽しく語り合い、大切な飛鳥の景観を未来に継承していくことを意図し、2002年から活動しています。活動は年数回で、1回は2泊3日の泊まり込み作業キャンプを開催しています。



・明日香の里山と棚田風景です



・明日香の自然に抱かれる集落です

今回は石舞台の借景となる「上居（じょうご）地区北谷」の竹の皆伐活動作業キャンプです。参加者は、韓国からトラスト関係者ら6名、台湾から環境情報協会関係者2名を含み、東京、神奈川、茨城、兵庫、京都、大阪、奈良から総勢47名です。年齢は10代から70代まで幅広く、若者の参加者が多いのが特徴でした。また、地元から23名の方に指導、支援していただきました。

第1日目は、pm1:30に宿泊施設の「祝戸（いわいど）荘」に集合し、オリエンテーションから開講しました。まず、三木会長の趣旨説明、関明日香村村長の歓迎とお礼のあいさつ、上居地区の山本総代のお礼のあいさつの後、参加者各自が一言コメントでPRする自己紹介を行いました。

その後、活動現場を視察。対象地は棚田の放棄地で、道路から仰視する地形で、面積は約3,000㎡です。北側は小川が流れており、南側は約1.0m幅の農道で上宮寺へ上る近道でもある。川沿いと道路沿いは笹（篠竹）が繁茂し、その奥は真竹です。20余年放置されていたそうです。

敷地に隣接する上宮寺に移動。上宮寺の裏側から西方向の眺めは最高です。ボランティアガイドの説明を耳にしなが、眼下に石舞台を眺め、水田や樹々の緑の中に日本瓦屋根の家々が散在し、遠くに甘樫丘や畝傍山を望む風景は、時を忘れて、いにしへの飛鳥人へ誘われる思いでした。

帰路は石舞台を見学しました。祝戸荘に帰着、休憩。pm6:00から「明日香の自然と植生について」地元在住の嶋村清隆氏と水谷道子氏の講話が約1時間ありました。夕食は食堂に一同が会しての食事です。飛鳥ならではの食材も多く、ボリュームたっぷりでした。食事後、場所を変えて、恒例の懇親会が始まりました。20畳ほどの細長い部屋です。自由参加ですが、ほぼ全員が集合。差し入れの

ビールを片手に談笑タイムです。話題はもちろん活動への参加理由や日ごろの活動についての情報交換などです。進行役の奥田氏の声も耳に入らず、話の輪が広がります。海外からの参加者も積極的です。コミュニケーションは主に英語です。数人の英語の堪能者もおられましたが、カタコト英単語で意外と意思は通じるものです。多くの参加者が海外や遠いところでの活動を知ることが出来て、またとない情報交換の場となりました。話しは尽きませんが、翌日の活動に備えて、pm 10:00に第1夜の懇親会は解散しました。



・関明日香村村長の歓迎とお礼のあいさつです



・三木会長のあいさつで開講しました



・一言コメントの自己紹介です



・談笑の中での食事風景です

第2日目は前夜に一時激しく雨が降り、心配されましたが、曇りで時々薄日が射す天候でした。朝食はam 7:30からです。まだ、疲れは見えません。しっかりと朝食を取りました。宿舎から徒歩で、活動現地へ移動。地元の方々と合流、あいさつの後、新開副会長から作業内容と注意事項の説明がありました。活動は対象地を東西南北に田の字に4分割し、4班体制です。班ごとに道具をかついで、各場所へ移動しました。

さあ、活動の開始です。周辺の繁茂した笹(篠竹)は草刈機による機械刈りです。こちらは地元の方や応援の飛鳥里山クラブの方をお願いすることにしました。我々は少し離れたところで、手刈り作業です。竹の伐採方法や注意事項を教わり、作業を始めました。鎌や鋸を持つのは初めての方もおられましたが、お互いに助け合い、慎重に作業を進めました。やはり、関心を持った者は学習能力が早い。鋸切り作業は軽くひいて、切るのがコツであることを会得。切った笹竹の仮集積場所を作り、積み重ねていきます。笹を根元付近から切る者、それを集積する者との連携作業です。竹は伐採したものを3mを標準にして玉切り後、枝払いをして、近くの仮集積場所に運びました。何分にも、湿度が高く、暑い。約30分の作業で休憩することにしました。婦人会で用意していただいた冷えた麦茶が喉を潤してくれました。作業が進むにつれて、広がりが大きくなり、地形が現われてきます。北西下がりの棚田状であることがはっきりしました。



・作業前の笹と竹の現状です



・笹の繁茂する中での伐採作業です



・仮置き場に集積し、少し見通しが良くなる



・傾斜地での伐採作業です

昼食は上宮寺に移動し、上居地区婦人会の7名の方が早朝から料理していただいた「カレーライス」です。ご飯もうまい、カレールーもうまい。最高です。暑い時の、疲れた体には最適です。韓国、台湾の人達も異文化の食事に大満足の様でした。食後の冷えたトマト（昨年活動地の阪田地区からのプレゼント）も格別の涼味でした。地元の皆様の心のこもったもてなし、ありがとうございました。合掌。



・上宮寺の境内での昼食風景です



・昼食を作っていた婦人会のご婦人達です

午後は午前に引き続いての作業ですが、残った笹の刈取りと集積、竹の伐採が中心です。刈取った後の足元は歩きにくい。切り残りがあり、木竹葉があり、腐葉が散在しているためです。こまめに切り直し、拾い集める作業をしました。作業が進むにつれて、班の区別が無くなり、一つの活動場になりました。竹を根元付近で切るのはいいが、倒す時が大変です。多くの人が作業しています。「倒しまーす」と大きな掛け声をかけながら、倒す方向の安全を確認して、ゆっくりと倒していきます。これが、意外と力が要ります。避ける者も足元が悪く、疲れてきています。敏速な動きが出来ません。危ない時もありました。玉切りのために、重なった竹を引っ張りだすのも一苦労です。何分にも、長い竹で1

5 m程で枝が20数本付いています。根元部を持って、移動させました。玉切りは少し持ち上げると楽に切ることが出来ました。枝払いも多くの方が色々な動きをしているところでは鎌や鉋(なた)より、鋸の使用の方が安全のようです。初めての方も、班長や経験者の指導で、伐採の体験をしました。これから先、どこかで、生すことが出来ると思います。今回の活動も一致団結の成果と、参加者の意識が高かったこともあり、予定より約30分早く作業を終了しました。それぞれの班ごとに使用道具を確認して、朝の集合場所まで運びました。



・「倒しまーす」の掛け声と安全確認です



・枝払いと玉切り作業後、集積です

宿舎に帰着後、入浴、休憩。pm5:30から台湾と韓国の代表から活動報告がありました。台湾からはバイカモの保全活動、韓国からは佐々木さんが参加された国際キャンプの紹介がありました。食事は食堂で交流会を兼ねて行われました。三木会長と上居地区山本総代のあいさつの後、小野山さんの発声で乾杯をし、しばらくは食事に専念しました。

交流会では韓国の参加者の皆さんから、キムチのお土産がありました。地元で一番人気のある、お店のもので無添加だということでした。我々には少し硬めの大根キムチ感覚でした。台湾の参加者からは珍しい梅干の砂糖漬けや豆菓子、練り菓子、ウーロン茶をいただきました。ウーロン茶は、色は薄い目ですが香りが良く、まろやかなものでした。懇談は食事の食材や日ごろの活動などを話題にして、韓国や台湾の人達とは母国語と英語のチャンポンで話が弾みました。

韓国といえばキムチです。「本場のキムチ」の作り方についてのリクエストがあり、今秋に結婚予定のミホさんから詳しく話しをしていただきました。各家庭で独自のレシピがあり、昔はキムチの作り方を母から伝授されて嫁ぐことが、結婚の条件だったそうです(しかし、今はこだわらないそうです)。談笑が進む中、数名の方に活動の感想を話していただきましたが「疲れたが次回もぜひ参加したい」という意見が多くありました。活動中に注目されたのが韓国から参加の大学生のキャンディさん。その活動ぶりは男勝りの活躍で、交流会では総代が「息子の嫁にほしい」と発言。場の盛り上がりは最高となりました。楽しい時間は進むのも早い。予定の約2時間が過ぎ、閉会のセレモニーです。

今回は韓国側から会長と副会長に参加へのお礼の品と参加者に金ぱくの本に挿むシオリと伝統衣装デザインのマグネットのお土産をいただきました。ありがとうございました。日本側からは三木会長自ら探し求められてきた品々を韓国と台湾の参加者全員に贈呈です。焼き物の湯呑や絵皿です。産地や絵柄、デザインした日本人の名前などの説明をして、一人ひとりに手渡しをされました。いずれも、日本の文化が育んだ品々です。外国の人たちにとっては、最良のお土産になったでしょう。また、韓国のナショナル・トラストからの参加者に新開副会長からナショナル・トラストに因んだ記念品が贈られました。笑いが絶えなかった交流会も終わりです。食器の片付けはセルフサービス。各自が返却口まで運び、解散しました。



・台湾、韓国から参加の8人です。(記念品贈呈後撮影)



・日本の参加者にも(シオリほか)をいただきました。

次は第2夜懇親会の始まりです。さすがに、疲れた人が多いのか、参加者は昨日より少ない。韓国から米のジュースの差し入れがありました。米を炊いて、麴を混ぜて約8時間で出来るそうで、朝から仕込みを行ったそうです。さらに、アルコール度数40の地酒の差し入れがあり、試飲で大騒ぎ。これはきつい。日本にはない「アルコール」でした。また、マンゴウの一口ゼリーは冷たく、口当たりがよく、好評でした。昨日より、少し慣れたこともあり、話題は多様で、談笑の中にも真剣な話が交わされる輪もありました。進行役の奥田氏の指名にも、好き勝手な発言に「レッドカード」や「イエローカード」の発声の連発でしたが、そのつど、的を得た「だじゃれ」で、場が和みました。

第3日目は天気予報では曇り、小雨のち雨です。今は降っていません。夜中に激しく雨が降ったようで、路面は濡れています。am7:30から朝食です。朝食への出足が悪い。昨日の疲れが出ているのか。しかし、集合時間には全員がスタンバイ出来ました。宿舎から徒歩で活動現地に移動。雨が降ったことで、暑さが少し和らいでいました。

地元の方と合流、朝のあいさつの後、活動開始です。まず、伐採した笹や竹の移動と切り株の切り直し、木竹葉の集積などです。足元を清掃し、動きやすくしました。竹の伐採も、予定域を超えて行いました。多くの方が活動するスペースとしては狭い。倒すタイミングも難しく、玉切りや運ぶのも動きが交差するために、周りを気にしての活動となりました。

農道沿いに垂れ下っていたコナラの大枝を剪定(せんてい)しました。新開さんが樹に登り、チェーンソーで上からの作業です。仕事柄、慣れているとはいえ、生木を切るのは初めてだったそうです。無理な姿勢での作業でしたが持ち前の器用さで、見守る人達の心配も余計とばかりにバッサリと切り落としました。また、クワの大木も伐採しました。40年余りの樹齢で、一部が腐朽しているために危険と判断し、地元の方の要望でもあり、伐採することにしました。巨樹を意図する方向に伐倒するのは難しく、樹形の読み違いでチェーンソーが樹に噛まれて、応援のチェーンソーの助けを借りて切り倒すことが出来ました。年輪が生育環境の痕跡を残していました。農道の端で、約2mの段差の法肩に位置し、片方が樹林で陽の当たりが悪かったために、根元部の年輪の中心は歪なほどに農道沿いに偏っていました。伐採後、玉切りを行い、仮置きのために集積しました。今日の活動も三木会長の発声で終了し、二日前と大きく変わった活動地でVサインの記念写真を撮りました。

この地の景観再生計画では「ヤマザクラの園」構想があり、今年の秋にでも苗木植樹活動が予定されています。将来にわたり、石舞台の借景として飛鳥の景観を醸成する大きな役割を果たすことを関係者一同が願っています。



・活動の成果です。きれいになりました



・参加者の記念写真です

昼食は昨日と同じく、上宮寺に移動し、婦人会の皆さんに料理していただいた「かやくご飯」と「きざみタクワン」、「味噌汁」です。今日のデザートは地元産のスイカです。少し冷えた甘い旬の味覚は汗をかいた後でもあり、日頃味わうことの出来ない格別の味でした。ありがとうございました。今日も心を込めて合掌。お世話になった地元の方とも、ここでお別れです。婦人会の皆様とも記念写真を撮影後、山本総代から手作りの竹炭のお土産をいただき、宿舎への帰路に着きました。帰着後、入浴、休憩。祝戸荘で会長から、最後の挨拶があり、自由解散となりました。

希望者への活動プログラムとして、遠くからの参加者や飛鳥をもっと知りたい人達のためにボランティアガイドの案内で飛鳥寺や飛鳥資料館などを見学するコースが予定されていて、10数人が参加しました。

今年の作業キャンプ活動も無事終了。暑い中での活動でしたが、楽しく、多くのことを学び、友情を深め、有意義な体験が出来たキャンプでした。皆様、お疲れさまでした。来年もこの飛鳥の地で、いい汗をかき、語りあいましょう。楽しみにお待ちしております。

2006年8月31日

運営委員 長尾輝治

(掲載写真は夢耕社と加藤英雄氏、新開高尾氏、佐々木孝子氏撮影を使用しました。)

[ホームページに戻る](#)